

1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株 (日経平均) >



<米国株 (NYダウ) >



<円/ドル >



(注)チャートは過去1年

	単位	2021/12/31	2022/4/30	2022/5/6	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	28,791.71	26,847.90	27,003.56	30,795.78	2021/9/14	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ドル	36,338.30	32,977.21	32,899.37	36,952.65	2022/1/5	18,213.65	2020/3/23
円/ドル	円	115.08	129.70	130.56	131.25	2022/4/28	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先々週・先週の振り返り

~ 米金融引き締め前倒しへの警戒感や中国のロックダウン (都市封鎖) 拡大懸念が重しとなるも、円安ドル高の進行が上昇要因となり、ほぼ横ばい ~

先々週・先週 (4月25日~5月6日) の日本株市場は、日経平均が▲101.70円 (▲0.38%)、TOPIXが+10.76ポイント (+0.56%) となり、米金融引き締め前倒しへの警戒感や中国のロックダウン拡大懸念が重しとなるも、円安ドル高の進行が上昇要因となり、ほぼ横ばいとなりました。業種別 (東証33業種) でみると、電気・ガス業、ゴム製品、石油・石炭製品などの24業種が上昇した一方、その他製品、サービス業、証券・商品先物取引業などの9業種が下落しました。

先々週前半は、米金融引き締め前倒しへの警戒感から米国株市場が大幅に下落したことや、新型コロナウイルスの感染が広がる中国でのロックダウン拡大懸念により世界景気減速への警戒感が強まったことなどから下落しました。連休前28日は、日銀が現行の緩和的金融政策の維持を決定したことを受けて130円台まで円安ドル高が進行したことなどから、輸出関連株や好決算銘柄を中心に急反発しました。連休中日となる2日は、FOMC (米連邦公開市場委員会) を控えた警戒感からやや弱含みましたが、週末6日は、FRB (米連邦準備理事会) が0.5%の利上げを決定したことを受けて円安ドル高が進んだことなどから、上昇して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
5月9日	Mon	中国	貿易収支	4月	473.8億ドル
5月10日	Tue	ドイツ	ZEW期待指数	5月	▲41.0
5月11日	Wed	日本	景気一致指数	3月	96.8
			景気先行CI指数	3月	100.0
		中国	CPI (消費者物価指数) (前年比)	4月	+1.5%
		米国	CPI (除食品・エネルギー/前年比)	4月	+6.5%
5月12日	Thu	日本	金融政策決定会合における主な意見 (4月27・28日分)		
			景気ウォッチャー調査現状	4月	47.8
		米国	景気ウォッチャー調査先行き	4月	50.1
			PPI (生産者物価指数) (除食品・エネルギー/前年比)	4月	+9.2%
5月13日	Fri	欧州	ユーロ圏鉱工業生産 (前月比)	3月	+0.7%
		米国	ミシガン大学消費者信頼感指数	5月	65.2

決算発表予定 他	国内	海外
	決算発表 : 5/9 川崎汽船、日本郵船、ユニチャム 5/10 住友商、伊藤忠、日本製鉄、パンパシ、ダイキン、協和キリン、住友鉱、島津製作所、出光興産、太陽誘電、AGC、三菱商、ソニーG、任天堂、ヤマトHD、ユー・エス・エス、ローム 5/11 小野薬、塩野義薬、味の素、日本酸素HD、オリンパス、凸版印刷、オックス、ススキ、富士フイルム、TIS、INPEX、花王、ミネア、ヤマハ、ソフトバンク、武田薬、TDK、ブリヂストン、シャープ、パナソニック、NTT、パナソニック、カブコム、トヨタ、住友電工 5/12 三菱重、スバル、NTT、明治HD、SUMCO、三菱地所、テルモ、浜松ホト、ソフトバンクG、資生堂、東レ、住友不動産、キリンHD、NIPPON EXPRESS HD、セコム、ネクソン、シスマス、クボタ、サンリ食、トレント、コナミHD、日産、マツダHD、第一生命H、GMOPG、リソナHD、三井住友TH 5/13 鹿島、旭化成、エネオス、大塚HD、三菱ケミ、日清食品H、東レ、大成建設、ヤクルト、東急、大和ハウス、阪急阪神H、日産化、ゆうちょう銀、住友友化、SMC、T&DHD、近鉄GHD、みずほFG、かんぽ生命、朝日インテ、三井不、日本郵政、大日本印刷、いすゞ自、樂天G、ヤマハ発、KDDI、タイフク、三井住友FG、東芝、日本ヘイ、エーザイ	決算発表 : 5/10 バイエル、ベロトン 5/11 ウォルト・ディズニー 5/12 シーメンス、メルク、コメツ銀、アリアンツ、ウーワーク、鴻海精密工業

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 米国のインフレ指標の公表が相次ぐ中でFRBの金融引き締め前倒しへの警戒感から、軟調に推移 ~

今週の日本株市場は、米国のインフレ指標の公表が相次ぐ中でFRBの金融引き締め前倒しへの警戒感から、軟調に推移するとみえています。

国内連休中に開催されたFOMC結果は、大方の予想に沿った内容であったものの、FRBはインフレ抑制を最重要視する姿勢を示しました。今週は、米国において11日のCPIや12日のPPIなどインフレ関連指標の発表が相次ぎますが、これらがインフレの高止まりを示すものとなれば米金融引き締めが前倒しされるとの警戒感が意識されやすくとみえています。また、G7 (主要7カ国) がロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続く中でロシア産原油の輸入禁止に取り組みと表明したことにより、原油価格の一段高が懸念されることもインフレ懸念や企業のマージン悪化懸念に繋がるとみえています。なお、本格化する2021年度本決算において、2022年度の期初会社計画は予想比で慎重な見通しが多いことから、円安進行による業績改善期待は根強いものの、株価を押し上げる材料にはなり難いとみえています。その他の注目材料として、日本では11日の景気一致指数/景気先行CI指数、12日の景気ウォッチャー調査、米国では13日のミシガン大学消費者信頼感指数、欧州では13日のユーロ圏鉱工業生産、ドイツでは10日のZEW期待指数、中国では9日の貿易収支、11日のCPIなどが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.

URL: <https://www.alamco.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第301号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会 / 一般社団法人日本投資顧問業協会